

1.	“政策のための科学” プログラム 関連部局・参画教員一覧 .....	3
2.	“政策のための科学” プログラムの概要 .....	4
3.	教育課程 .....	7
4.	平成 30 年度 “政策のための科学” プログラム授業科目一覧表 .....	8
5.	平成 30 年度 “政策のための科学” プログラム授業科目時間割 .....	9
6.	平成 30 年度 “政策のための科学” プログラム授業科目詳細 .....	10
6.1	現代社会と科学技術 .....	10
6.2	科学技術コミュニケーション演習 .....	11
6.3	研究プロジェクト .....	12
6.4	現代社会と科学技術入門 .....	13
6.5	疫学 I (疫学入門) .....	14
6.6	学術情報リテラシー実践 .....	15
6.7	科学技術・イノベーション政策概論 .....	16
6.8	科学技術イノベーション政策総合演習 .....	17
6.9	医薬政策・行政 .....	18
6.10	問題解決思考 .....	19
6.11	科学技術・イノベーションと大学 .....	20
6.12	公共政策論 I .....	21
6.13	科学技術と社会に関わるクリティカルシンキング .....	22
6.14	文献評価法 .....	23
6.15	政策のための研究方法論 .....	24
6.16	科学的方法による京都学実践 .....	25
6.17	技術者倫理と技術経営 .....	26
6.18	情報社会論 .....	27
6.19	医薬品の開発と評価 .....	28
6.20	健康情報学 I .....	29
6.21	医療政策の ELSI .....	30
6.22	可視化シミュレーション学 .....	31
6.23	応用経済学 .....	32
6.24	まちづくりとまち経営 .....	33
6.25	現代社会論演習 1B .....	34

6.26	共生社会環境論演習 3B.....	35
7.	(参考) 大阪大学カリキュラム .....	36

## 1. “政策のための科学” プログラム 関連部局・参画教員一覧

平成30年3月現在

### 【関連部局：15】

医学研究科、化学研究所、学際融合教育研究推進センター、学術情報メディアセンター、経営管理大学院、経済学研究科、経済研究所、工学研究科、こころの未来研究センター、情報学研究科、人間・環境学研究科、農学研究科、文学研究科、理学研究科、iPS細胞研究所

### 【参画教員：21】

部局	職名	氏名
医学研究科	教授(ユニット長)	川上浩司
	教授	中山健夫
化学研究所	教授	二木史朗
学際融合教育研究推進センター	特任教授	カール・ベッカー
	准教授	宮野公樹
	特定助教	井出和希
	特定助教	祐野恵
学術情報メディアセンター	教授(副ユニット長)	小山田耕二
経営管理大学院	教授	末松千尋
	特定教授	吉田恭
経済学研究科	教授	依田高典
経済研究所	准教授	小嶋大造
	特定准教授	関根仁博
工学研究科	教授	富田直秀
こころの未来研究センター	教授	広井良典
情報学研究科	教授	大手信人
人間・環境学研究科	教授	佐野亘
農学研究科	教授	宮川恒
文学研究科	准教授	伊勢田哲治
理学研究科	講師	市川正敏
iPS細胞研究所	准教授	田淵敬一

## 2. “政策のための科学” プログラムの概要

(<http://www.stips.kyoto-u.ac.jp/>)

我が国の第4期科学技術基本計画が掲げる「社会及び公共のための政策」「社会とともに創り進める政策」としての科学技術イノベーション政策の形成のためには、科学技術や公共政策に対する社会の期待・懸念・問題認識を把握し、反映させていくことが求められています。このような認識のもと、京都大学は、文部科学省より大阪大学と合同での「政策のための科学」領域拠点として今後15年間選定され、2012年2月より学際融合教育研究推進センターに政策のための科学ユニットが設置されました。この大阪大学および京都大学の連携による人材育成プログラム「公共圏における科学技術・教育研究拠点 (Program for Education and Research on Science and Technology in Public Sphere; STiPS)」については、<http://stips.jp/>をご参照ください。

科学技術イノベーション政策の形成のためには、定量的なエビデンスに加え、社会の多様な主体による熟議（対話と熟慮）を含む「科学技術への公共的関与 (public engagement)」や「科学技術の倫理的・法的・社会的問題 (Ethical, Legal and Social Issues; ELSI)」研究が生み出すエビデンスが不可欠です。この認識のもと、2013年度から本学の大学院生に対して開講する人材育成プログラムでは、本領域の研究を基盤として公共的関与の活動と分析を行い、学問諸分野間、ならびに学問と政策・社会の間を“つなぐ”ことを通じて政策形成に寄与できる人材の育成を目指します。修了生は、主専攻の専門性を中心としつつ、さらに「政策のための科学」の素養を備えた人材として、国際機関、中央政府、地方行政自治体、研究大学における研究戦略関連職、政策秘書、シンクタンク、企業のリスクコミュニケーション担当者などをキャリアパスとすることを想定しています。研究においては、政策を実施すべき各分野において、何を仮説として設定するのか、また、複数の異なる領域、価値観から、どのように優先順位をつけて予算配分をするのかといった問題が重要な課題です (図1)。

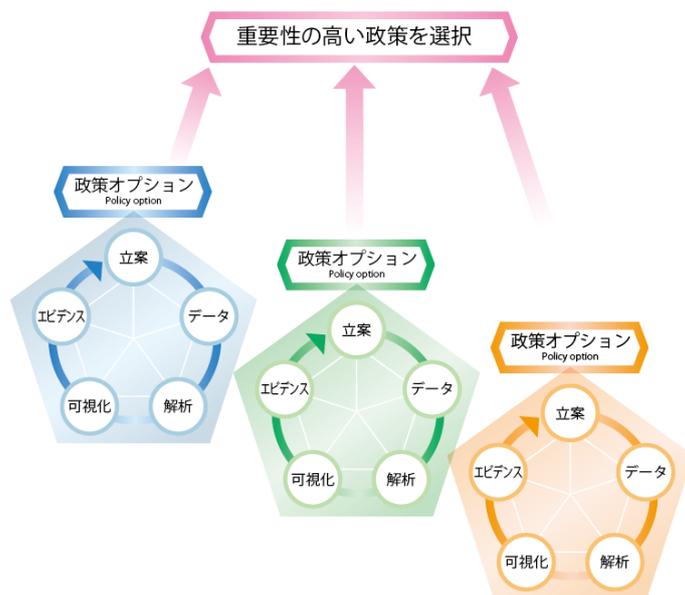


図 1 さまざまな領域からの政策決定の概念図

定量的なエビデンスにおいては、実世界における各種のデータを可視化し、そこから様々な手法で解析評価をする手法の深化も重要です。医療分野を例にとると、ヘルステクノロジーアセスメント (Health Technology Assessment; HTA) は、医療の質を評価して実行する Evidence-based medicine (EBM)、さらに EBM を実施するなかで、その費用対効果を評価する比較効用分析 (Comparative Effectiveness Research; CER) を内包しています。いずれの研究手法も、疫学、医療統計、行動科学などの科学にもとづいており、実世界のデータからエビデンスへ、エビデンスから政策へ、そして政策を実施したのちにそれを評価していくというサイクルが形成されていくことになります (図2)。

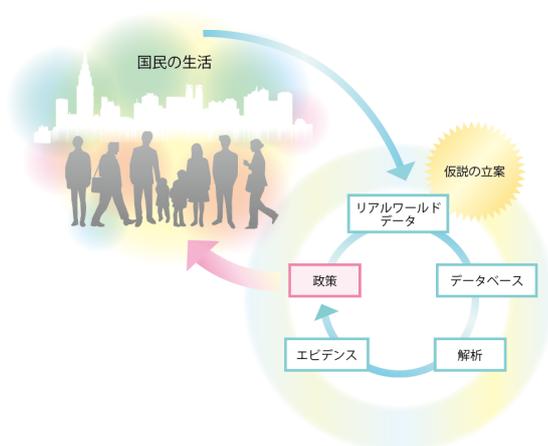


図 2 エビデンスベースの政策決定の概念図

重要な科学技術分野であるエネルギー、環境、農業、食品、工学、宇宙などのテクノロジーアセスメント（TA）においてもこのような手法は有用と考えられ、さまざまな分野において同様な研究を実施していくことは、政策のための科学として大変重要と考えられます。さらに私たちは、さまざまな学際領域の研究者同士が議論し、定量的研究、定性的研究と組み合わせて新しい学問を開拓していくことを目指したいと考えています。

### 3. 教育課程

#### 【カリキュラムの構成】

科目カテゴリー		単位数
入門必修科目:リレー講義		2 単位
必修科目	:ディスカッション型授業	2 単位
連携必修科目:研究レポートの作成		2 単位
選択科目 I 基軸科目群	例) 科学技術政策とコミュニケーション 夏期セミナー合宿	1 科目以上
選択科目 II イシュー科目群	科学技術イノベーションと倫理的・法的・社会的 問題(ELSI)、ホットイシュー	1 科目以上

\* 大阪大学で開講されている提携カリキュラムに関しては、当プログラム受講が決定した時点で受講者に大阪大学のシラバスを周知します。

#### 【修了要件(必修:6 単位)】

研究指導を受け、合計 14 単位(うち必修 6 単位)を取得することが修了要件です。

科目カテゴリー	履修内容等	単位数
入門必修科目	『現代社会と科学技術』	2 単位
必修科目	『科学技術コミュニケーション演習』	2 単位
連携必修科目	『研究プロジェクト』	2 単位
選択科目 I・II	2 カテゴリーから最低 1 科目ずつ受講が必要	8 単位以上
計		14 単位以上

- ① 研究プロジェクトについては、専門職学位過程あるいは博士課程における研究に関連しても構いません。指導は本プログラム担当教員が行います。
- ② 修了者には京都大学、大阪大学合同のプログラム認定証を授与します。

#### 4. 平成30年度“政策のための科学”プログラム授業科目一覧表

区分	科目名	開講期	主担当教員(研究科)	単位	
入門必修科目	現代社会と科学技術	後期	川上教授ら(医学研究科)	2	
必修科目	科学技術コミュニケーション演習	通年	川上教授ら(医学研究科)	2	
連携必修科目	研究プロジェクト	通年	川上教授ら(医学研究科)	2	
選択科目(8単位以上)	選択科目Ⅰ：基軸科目群(1科目以上選択)	現代社会と科学技術入門	前期	川上教授ら(医学研究科)	1
		疫学Ⅰ(疫学入門)	前期前半	中山教授(医学研究科)	1
		学術情報リテラシー実践	前期	小山田教授 (学術情報メディアセンター)	2
		科学技術・イノベーション政策概論	前期	関根准教授(経済研究所)	2
		科学技術イノベーション政策総合演習	夏期集中	川上教授ら(医学研究科)	2
		医薬政策・行政	後期前半	川上教授(医学研究科)	1
		問題解決思考	後期隔週	末松教授 (経営管理大学院)	2
		科学技術・イノベーションと大学	後期	関根准教授(経済研究所)	2
		公共政策論Ⅰ	後期	佐野教授 (人間・環境学研究科)	2
		科学技術と社会に関わるクリティカルシンキング	後期	伊勢田准教授 (文学研究科)	2
	選択科目Ⅱ：イシュー1科目群(1科目以上選択)	文献評価法	前期後半	中山教授(医学研究科)	1
		政策のための研究方法論	前期	ベッカー教授 (政策のための科学ユニット)	2
		科学的方法による京都学実践	前期	小山田教授 (学術情報メディアセンター)	2
		技術者倫理と技術経営	前期	松原教授ら(工学研究科)	2
		情報社会論	前期	大手教授(情報学研究科)	2
		医薬品の開発と評価	後期後半	川上教授(医学研究科)	1
		健康情報学Ⅰ	後期	中山教授(医学研究科)	2
		医療政策の ELSI	後期	ベッカー教授 (政策のための科学ユニット)	2
		可視化シミュレーション学	後期	小山田教授 (学術情報メディアセンター)	2
		応用経済学	後期	依田教授(経済学研究科)	2
まちづくりとまち経営	後期	吉田教授 (経営管理大学院)	2		
現代社会論演習ⅠB	後期	広井教授 (こころの未来研究センター)	2		
共生社会環境論演習3B	後期	佐野教授 (人間・環境学研究科)	2		

## 5. 平成30年度“政策のための科学”プログラム授業科目時間割

### 前期開講科目

前期	月	火	水	木	金
1限				現代社会と科学 技術入門【1】	
2限		科学技術・イノベ ーション政策概論 【2】	情報社会論【2】		
3限			政策のための研 究方法論【2】	技術者倫理と技 術経営【2】	疫学 I (疫学入 門)(前期前半) 【1】
4限	文献評価法(前期 後半)【1】				疫学 I (疫学入 門)(前期前半) 【1】
5限		学術情報リテラシ ー実践【2】		科学的方法による 京都学実践【2】	

【】内は単位数

### 後期開講科目

後期	月	火	水	木	金
1限					
2限		科学技術・イノベ ーションと大学 【2】	医薬政策・行政 (後期前半)【1】 医薬品の開発と 評価(後期後半) 【1】	まちづくりとまち 経営【2】	健康情報学 I 【2】
3限			応用経済学【2】 現代社会論演習 情報社会論【2】		公共政策論 I 【2】
4限		可視化シミュレ ーション学【2】 問題解決思考(隔 週)【2】	医療政策の ELSI 【2】	現代社会と科学 技術【2】	
5限		科学技術と社会に 関わるクリティカ ルシンキング【2】 共生社会環境論 演習3B【2】 問題解決思考(隔 週)【2】			

【】内は単位数

## 6. 平成 30 年度”政策のための科学”プログラム授業科目詳細

### 6.1 現代社会と科学技術

授業科目名	現代社会と科学技術	講義担当者 所属・氏名	医学研究科教授 川上浩司ほか		
開講場所	国際高等教育院棟 演習室 24	単位数	2	授業形態	実習
講義担当部局	医学研究科	開講期	後期	曜時限	木 4
〔授業の概要・目的〕					
<p>本講義は、「政策のための科学」プログラムの必修科目の1つ(入門必修科目)である。          本講義は、現代社会と科学技術入門と一貫した講義であり、受講者は現代社会と科学技術入門の講義から継続した受講が必要である。</p>					
〔到達目標〕					
<p>「政策のための科学」プログラムにおいては、科学と社会、政策とを「つなぐ人材」の要請を目標としている。この目的のために、様々な関連トピックを取り上げて、講師からの話題提供と、それに基づいた学生間のディスカッションを行い、科学の多様性と社会、政策を考えるための端緒とする。</p>					
〔授業計画と内容〕					
〔予定・内容〕					
<p>第 1 回 10 月 04 日 平川教授(大阪大学) トランス・サイエンスと Participatory Technology Assessment          第 2 回 10 月 11 日 末松教授 トランザクション・コストと経済政策          第 3 回 10 月 18 日 全教員 研究プロジェクト中間発表会          第 4 回 10 月 25 日 加藤教授(大阪大学) ライフサイエンスの倫理とガバナンス          第 5 回 11 月 01 日 田淵准教授 社会と科学の関わり方-ある研究不正問題を事例に-          第 6 回 11 月 08 日 中山教授 疫学とゲノム科学から社会基盤を考える          第 7 回 11 月 15 日 富田教授 技術の質の評価          第 8 回 11 月 22 日 後藤准教授(慶応義塾大学) 医療費の増加と医療技術評価          第 9 回 11 月 29 日 宮川教授 食品のリスクアナリシスと法整備の為の科学          第 10 回 12 月 06 日 依田教授 「政策のための科学」の計量書誌学データ分析          第 11 回 12 月 13 日 小山田教授 データ可視化と政策立案          第 12 回 12 月 20 日 関根准教授 最先端大型研究施設の整備          第 13 回 01 月 10 日 瓜生原准教授(同志社大学) 移植医療の社会的価値          第 14 回 01 月 17 日 大手教授 水資源と森林の政策を考える          第 15 回 01 月 24 日 宮野准教授 振り返りワークショップ</p> <p>※ 最新情報は Web サイト( <a href="http://www.stips.kyoto-u.ac.jp/">http://www.stips.kyoto-u.ac.jp/</a> ) も参照すること。</p>					
〔履修要件〕					
<p>本コースは現代社会と科学技術入門と一貫した講義であり、受講者は現代社会と科学技術入門の講義から継続した受講が必要である。</p>					
〔成績評価の方法・基準〕					
平常点(出席を含む、50%)、レポート(50%)					
〔教科書〕					
特になし					
〔参考書等〕					
特になし					
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕					
特になし					

## 6.2 科学技術コミュニケーション演習

授業科目名	科学技術コミュニケーション演習	講義担当者 所属・氏名	医学研究科教授 川上浩司ほか		
開講場所	不定	単位数	2	授業形態	演習
講義担当部局	医学研究科	開講期	通年	曜時限	その他
〔授業の概要・目的〕					
<p>本講義は「政策のための科学」プログラムの必修科目の1つ(必修科目)である。  「政策のための科学」プログラムにおける研究プロジェクトを進めるうえで必要となる、問いの立て方、仮説検証に関する方法論、プレゼンテーションスキルの習得等を目的とする。あわせて、受講生におけるディスカッションを通じて、研究に関する批判的考察能力を涵養する。</p>					
〔到達目標〕					
<p>科学技術を巡る社会的課題を各分野における分析のフレームワークで捉え、政策分析手法によって論理的に論じられることを到達目標とする。受講生におけるディスカッションによって、実践的に能力の習得を目指す。</p>					
〔授業計画と内容〕					
<p>受講生は事前に発表等の準備を行うこと、また、ディスカッションには積極的に参加することを期待する。</p> <p>【予定・内容】  前期・後期に渡り、以下 15 回を予定する。具体的な日程は、講義開始前に連絡予定。</p> <p>◇前期  第 1 回 オリエンテーション・講義概要  第 2 回～第 3 回 問いの立て方-議題検討  課題:「政策のための科学」において取り組む研究プロジェクトのテーマの建て方と絞り方を一緒に検討する。  第 4 回～第 7 回 先行研究のレビュー  課題:研究プロジェクトにおける先行研究の収集方法、分析法、そしてそのレビューとなるプレゼンを用意する。</p> <p>◇後期  第 8 回～第 11 回 科学的政策分析の手法  課題:研究プロジェクトで用いる論理と分析手法を確認し合う。  第 12 回～第 15 回 効果的なプレゼンテーション術  課題:研究の状況をパワーポイントにまとめ、発表の準備を行う。</p>					
〔履修要件〕					
特になし					
〔成績評価の方法・基準〕					
<p>中間(2-3 回)の発表:計 25%、期末発表:15%、毎回の出席と宿題提出:60%、と計算して評価する。  なお、4 回以上授業を欠席した場合、単位は認めない。</p>					
〔教科書〕					
特になし					
〔参考書等〕					
特になし					
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕					
特になし					

### 6.3 研究プロジェクト

授業科目名	研究プロジェクト	講義担当者 所属・氏名	医学研究科教授 川上浩司ほか		
開講場所	不定	単位数	2	授業形態	実習
講義担当部局	医学研究科	開講期	通年	曜時限	その他
〔授業の概要・目的〕					
本講義は、「政策のための科学」プログラムの必修科目の一つである。プログラム2年目に履修すること。					
〔到達目標〕					
公共的視点から科学技術と政策や社会とをつなぐ活動や成果物の作成を行うことにより、自らの専攻分野を生かしつつ、プログラムで学んだ知識やスキルを活用する能力を獲得する。					
〔授業計画と内容〕					
<p>科学技術イノベーション政策に関連する具体的なトピックと方法論を用いて、「政策のための科学」に関連する個人研究もしくは共同研究のプロジェクトを実施し、小論文・研究レポート(日英可)を作成する。それぞれの研究テーマや進捗に合わせ、プログラム関連教員による個別指導を中心に 進める(プロジェクトの内容に関しては、各自の専門の学位論文に関連したもので可)。</p> <p>1年次に研究計画を策定し、テーマ発表会を行う。</p> <p>2年次に京都大・大阪大の合同発表会を実施する。</p> <p>時期については追って説明する。</p>					
〔履修要件〕					
履修前に、所属研究科の指導教員、および、本科目の担当教員に、研究計画等について相談すること。					
〔成績評価の方法・基準〕					
成果物・提出物により、総合的に判断する。					
〔教科書〕					
研究指導担当教員の指示による。					
〔参考書等〕					
研究指導担当教員の指示による。					
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕					
研究指導担当教員の指示による。					

#### 6.4 現代社会と科学技術入門

授業科目名	現代社会と科学技術入門	講義担当者 所属・氏名	医学研究科教授 川上浩司ほか		
開講場所	国際高等教育院棟 演習室 24	単位数	1	授業形態	実習
講義担当部局	医学研究科	開講期	前期	曜時限	木 1
〔授業の概要・目的〕					
<p>本講義は、「政策のための科学」プログラムの選択科目の1つである。          本講義は、現代社会と科学技術と一貫した講義であり、受講者は原則として本講義を先に受講する必要がある。</p>					
〔到達目標〕					
<p>「政策のための科学」プログラムにおいては、科学と社会、政策とを「つなぐ人材」の育成を目標としている。この目標のために、様々な関連トピックを取り上げて、講師からの話題提供と、それに基づいた学生間のディスカッションを行い、科学の多様性と社会、政策を考えるための端緒とする。</p>					
〔授業計画と内容〕					
<p>【予定・内容】</p> <p>第1回 05月10日 宮野准教授 大学における学問とは?分野融合・越境のダイナミクス          第2回 05月17日 小山田教授 科学的方法について          第3回 05月24日 川上教授 健康福祉政策と情報の活用          第4回 05月31日 ベッカー教授 現代社会の問題と政策のための科学的考え方          第5回 06月07日 伊勢田准教授 クリティカルシンキングの観点からみた科学技術と社会          第6回 06月14日 複数教員 第一回課題発表会          第7回 06月21日 佐野教授 現代民主主義のもとでの政策決定          第8回 06月28日 広井教授 未来世代を支える政策の考え方          第9回 07月05日 吉田教授 コンパクトシティ政策と科学          第10回 07月12日 全教員 研究プロジェクト中間発表会</p> <p>※ 最新情報は Web サイト ( <a href="http://www.stips.kyoto-u.ac.jp/">http://www.stips.kyoto-u.ac.jp/</a> ) も参照すること。</p>					
〔履修要件〕					
<p>本講義は、現代社会と科学技術と一貫した講義であり、受講者は原則として本講義を先に受講する必要がある。</p>					
〔成績評価の方法・基準〕					
出席(50%)、レポート(50%)					
〔教科書〕					
特になし					
〔参考書等〕					
特になし					
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕					
<p>適宜予習復習を求める。          面談希望は必ずメールで kawakami.koji.4e@kyoto-u.ac.jp までご連絡下さい。</p>					

6.5 疫学 I (疫学入門)

授業科目名	疫学 I (疫学入門)	講義担当者 所属・氏名	医学研究科教授 中山健夫ほか		
開講場所	医学部G棟 2階セミナー室A	単位数	1	授業形態	講義
講義担当部局	医学研究科	開講期	前期	曜時限	金 3、4
〔授業の概要・目的〕					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本コースは医学研究科社会健康医学系専攻の必須科目の一つです。</li> <li>・臨床研究を含む社会健康医学(パブリックヘルス)領域において、最も基本となる疫学の考え方、方法論についての入門的な講義を行います。</li> <li>・原則として金曜 3 限ですが、3 限と 4 限の 2 コマ連続で講義をおこなう場合があります。</li> </ul>					
〔到達目標〕					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・疫学の基本的考え方、用語、概念、方法論を説明できる。</li> <li>・疫学の発展的な知識を学ぶための基礎を身に付ける。</li> </ul>					
〔授業計画と内容〕					
<p>第 1 回 4 月 13 日(3 限) インTRODakション(中山)</p> <p>第 2 回 4 月 13 日(4 限) コホート研究・症例対照研究(中山)</p> <p>第 3 回 4 月 20 日(3 限) 疫学とはなにか?(佐藤)</p> <p>第 4 回 4 月 27 日(3 限) 介入研究(川村)</p> <p>第 5 回 4 月 27 日(4 限) 対象者の追跡(川村)</p> <p>第 6 回 5 月 11 日(3 限) 記述疫学・高齢者の疫学研究(石崎)</p> <p>第 7 回 5 月 18 日(3 限) 疫学をめぐる最近の話題(中山)</p> <p>第 8 回 5 月 18 日(4 限) 視聴覚教材「大いなる航海」(中山)</p> <p>5 月 25 日(3 限) テスト</p> <p>特別講義予定あり</p>					
〔履修要件〕					
特になし					
〔成績評価の方法・基準〕					
テスト(80%)、毎回の小レポート提出(20%)					
〔教科書〕					
講義資料は配布					
〔参考書等〕					
<p>川村孝『エビデンスをつくる』(医学書院)</p> <p>中山健夫・津谷喜一郎『臨床研究と疫学研究のための国際ルール集』(ライフサイエンス出版)</p> <p>矢野栄二・橋本英樹『ロスマンの疫学』(篠原出版新社)</p> <p>厚生統計協会編集『図説・国民衛生の動向』(厚生統計協会)</p>					
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕					
<p>予習は特に必要でないが、講義の復習には十分時間をあててください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・症例研究や基礎的研究と異なる「人間集団を対象とする」という疫学研究の意義と可能性を理解してもらえればと願っています。</li> <li>・本コースの内容の多様性と一貫性を保つために、担当教員はシラバス作成時、学期中、終了後など、適宜、意見交換を行い、講義資料を共有して連携を図っています。</li> <li>・留学生対応として、講義資料の事前提供、Key term の日英併記を進めます。</li> <li>・平成 27 年度から疫学(2 単位)を疫学 I・II(各 1 単位)に分割し、疫学 I は II よりも先に開講して、研究デザインの基本事項を講義することになりました。</li> <li>・特別講義の予定は初回の講義で説明します。</li> </ul>					

## 6.6 学術情報リテラシー実践

授業科目名	学術情報リテラシー実践	講義担当者 所属・氏名	学術情報メディアセンター 教授 小山田耕二 学術情報メディアセンター 特定准教授 江原康生		
開講場所	総合研究 5 号館 217 号室	単位数	2	授業形態	ゼミ
講義担当部局	全学共通科目	開講期	前期	曜時限	火 5
〔授業の概要・目的〕					
文系・理系を問わずあらゆる分野において研究を遂行するために必要とされる情報活用能力について体験的に学習させることを本講義のテーマとする。学生が興味を持つ研究分野を決定させ、全学 の研究において共通している情報活用能力(例えば、表計算ソフトを使った情報分析・可視化技術を使った情報表現、シミュレーション技術を使った情報創造、論文発表による情報発信、大型表示 装置を使った研究発表等)を習得させる。					
〔到達目標〕					
この科目を履修し、学修目的を達成した結果、社会のもつ課題の解決策をデザインするための情報活用能力を習得できる。解決策のデザインとして、科学的方法を代表する仮説検証法を活用できるようになる。また、データ取得に必要な基本的素養を身につけ 仮説検証で必要となるデータとしては、各種オープンデータ、そして必要な場合には、学生自ら取得したデータを利用できるようになる。					
〔授業計画と内容〕					
以下のような課題について、1 課題あたり 1～3 週の授業をする予定である。					
1.ガイダンス 2.科学的方法(仮説検証法について) 3.情報を収集する(学術論文の探索と評価・図書館で公開された論文を読む)(提出物:論文抄録) 4.情報を整理する(アンケート調査の実施)(提出物:アンケート案・実施手順・結果) 5.情報を分析する(Excel を使った情報分析)(提出物:結果のモデル化・考察) 6.情報を表現する(Word を使った論文形式レポート作成・ピアレビュー・PowerPoint によるプレゼン) 7.最終発表(日本語による口頭発表・表彰式)					
〔履修要件〕					
インターネット、電子メール、ワープロ、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトについて利用経験がある、もしくは授業期間内に自習できること。					
〔成績評価の方法・基準〕					
別途ホームページで指示する投稿規程・要領に従って執筆された研究成果レポート(60%)とグループ ディスカッションにおける積極性等(40%)を考慮して成績評価を行なう。					
〔教科書〕					
『研究ベース学習』(コロナ社)ISBN:139784339077933					
〔参考書等〕					
授業中に紹介する (関連 URL) <a href="http://ocw.kyoto-u.ac.jp/general-education-jp/introduction-to-researcha/lecturenote">http://ocw.kyoto-u.ac.jp/general-education-jp/introduction-to-researcha/lecturenote</a> (OCW 講義ノート URL(～2010 年度))					
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕					
学生の関心のもつ研究課題を授業前に調査しておき、授業中には、それらをクラスメンバーと共有しておく。クラスメートからのフィードバックを受けて、授業後に追加的調査を行う。					
本講義では、本格的な研究活動を課するのではなく、研究という現場を体験させながら情報教育を 実践することを目的とする。具体的には、 1)自分が興味をもつ学問分野に関連する「情報」を収集する。具体的には質の高い知識創造の瞬間に立ち会うことができるよう、できるだけ早い時期に研究対象に興味をもつ研究室を訪問する。 2)収集した「情報」を他人にわかりやすく説明する。当該学問分野における学会投稿を想定した 論文を執筆し、その内容にしたがった学術講演を行う。 1)に関連して Web ベース情報収集・情報整理、また 2)に関連して情報表現(論文執筆能力・プレゼン能力)に関するスキルを自ら身につけることを目標とする。					

## 6.7 科学技術・イノベーション政策概論

授業科目名	科学技術・イノベーション政策概論	講義担当者 所属・氏名	経済研究所特定准教授 関根仁博		
開講場所	公共政策大学院	単位数	2	授業形態	講義・演習
講義担当部局	公共政策大学院	開講期	前期	曜時限	火 2
〔授業の概要・目的〕					
<p>顕在化している環境問題、人口問題、資源・エネルギー問題といった地球規模課題への対応や、経済成長の原動力として、科学技術やイノベーションへの期待が高まっている。研究費などのファンディング、研究者をはじめとした科学技術系人材の育成、研究環境基盤整備といった科学技術政策における基本政策に加えて、近年特に重視されつつあるイノベーション創出や研究成果の移転・社会実装といった点も含め、その背景や政策的な狙いととも概観する。また、科学技術の社会への浸透に伴い重要性を増している科学技術と社会との関係についても具体的事例をもとに考察する。</p>					
〔到達目標〕					
<p>科学技術・イノベーションの特性とその振興政策に対する基本的な知識を習得するとともにその特性を理解することにより、科学技術・イノベーション政策のみならず政策一般に関する立案・分析に関する基本的能力を習得する。</p>					
〔授業計画と内容〕					
<p>授業では、主に以下のテーマを取り上げる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.日本の科学技術の現状分析</li> <li>2.日本の科学技術システムにおける課題とその対応(科学技術・イノベーション政策) <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題分析</li> <li>・基本政策(ファンディング、人材養成、研究環境基盤整備等)の背景と概要、狙い</li> <li>・イノベーション・マネジメント及びその関連政策(イノベーション概論、知的財産権制度等)の背景と概要、狙い</li> </ul> </li> <li>3.科学技術と社会との関係 <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例(生命倫理、原子力研究開発、インターネット社会など)を通じた科学技術が社会に及ぼす影響分析</li> <li>・サイエンスコミュニケーションなど科学技術と社会との関係性の構築手法</li> </ul> </li> </ol> <p>具体的な内容については、履修者の興味・関心に応じて変更する場合がある。 いくつかのテーマについては、外部講師等を招くこともある。</p>					
〔履修要件〕					
特になし					
〔成績評価の方法・基準〕					
<p>平常点(60点)とレポート(40点)により評価を行う。 平常点は、各界の講義の際の出席と発言など参加態度による。 期間中に、2回程度レポートの提出とそれに基づく発表・議論を求める。</p>					
〔教科書〕					
使用しない					
〔参考書等〕					
授業中に紹介する					
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕					
<p>授業中に紹介する参考書等による予習・復習を通じて理解を深めることが期待される。 オフィスアワー:事前連絡により随時受け付ける。</p>					

6.8 科学技術イノベーション政策総合演習

授業科目名	科学技術イノベーション政策 総合演習	講義担当者 所属・氏名	医学研究科教授 川上浩司ほか		
開講場所		単位数	2	授業形態	演習
講義担当部局	医学研究科	開講期	前期	曜時限	夏期集中
〔授業の概要・目的〕					
本講義は、「政策のための科学」プログラムのオリジナル科目の一つ(選択科目Ⅰ:基軸科目群)である。 プログラム1年目に履修することが望ましい。					
〔到達目標〕					
当該分野の先端的な知見を得るとともに、様々な視点から検討する。問題分析や政策提言等のグループワークを通じて、得られた知識の応用力を高めるとともに、各拠点の学生間の知的交流を促進する。					
〔授業計画と内容〕					
科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」基盤的研究・人材育成拠点(京都大学・大阪大学連携、政策研究大学院大学、東京大学、一橋大学、九州大学)合同の合宿セミナー。各拠点およびゲスト講師による講義とともに、共同で問題分析や政策提言等の作成を行うグループワークを行う。夏期休暇中に、2泊3日程度の合宿形式で行われる。 本年度は8月28日～8月30日に、政策研究大学院大学での実施を予定している。尚、大阪大学にて合宿事前ワークショップを開催する。時期については追って説明する。					
〔履修要件〕					
プログラム1年目に履修することが望ましい。					
〔成績評価の方法・基準〕					
成果物・提出物により、総合的に判断する。					
〔教科書〕					
特になし					
〔参考書等〕					
特になし					
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕					
適宜予習復習を求める。					

6.9 医薬政策・行政

授業科目名	医薬政策・行政	講義担当者 所属・氏名	医学研究科教授 川上浩司		
開講場所	医学部G棟 2階セミナー室A	単位数	1	授業形態	講義
講義担当部局	医学研究科	開講期	後期前半	曜時限	水 2
〔授業の概要・目的〕					
<p>本コースは医学研究科社会健康医学系専攻のMPHコア科目の一つです。医薬品、医療機器を軸に、日本および海外の健康政策、産業政策と行政を俯瞰します。社会福祉、財務、食品衛生、医薬経済の観点から、国際的な医薬品認可行政、経済性との整合、ライフサイエンス研究とトランスレーショナルリサーチの実際についても学びます。</p> <p>(科目責任者)川上浩司(薬剤疫学・教授)、目黒芳朗(厚生労働省)、西嶋康弘(厚生労働省)、 Christian Elze(Gatenion 社・シニアパートナー)、松林恵介(京大薬剤疫学・特定助教(予定))</p>					
〔到達目標〕					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医薬政策・行政、食品衛生行政、社会福祉に関連した政策の基本的考え方、方法論を理解している。</li> <li>・医薬経済、トランスレーショナルリサーチの政策上の取組の基本的考え方、方法論を理解している。</li> </ul>					
〔授業計画と内容〕					
<p>第1回 10月3日 医薬政策、行政の潮流 (川上)</p> <p>第2回 10月10日 米国連邦政府における医薬行政 (川上)</p> <p>第3回 10月17日 日本における医薬行政と最近の動向 (目黒)</p> <p>第4回 10月24日 食品衛生行政 (西嶋)</p> <p>第5回 10月31日 医療機器の行政、研究開発と課題 (川上)</p> <p>第6回 11月7日 Healthcare Systems – Challenges and Reform (Elze)</p> <p>第7回 11月14日 先端医薬品の開発と規制 (松林)</p>					
〔履修要件〕					
<p>本コース終了の翌週から継続して講義が行われるH079「医薬品の開発と評価」と連続、一括した内容となっており、原則として通して受講できない方は受け入れ不可とします。また、同日3・4限の H099「医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査」も本講義の内容を掘り下げたもので、合わせて受講することを推奨します。</p>					
〔成績評価の方法・基準〕					
講義の場への参加(50%)、レポート(50%)					
〔教科書〕					
<p>推奨テキスト</p> <p>安生紗枝子ら『新薬創製への招待:開発から市販後の監視まで』(共立出版)</p> <p>川上浩司編著『遺伝子医学 MOOK 別冊はじめての臨床応用研究』(メディカルドゥ社)</p>					
〔参考書等〕					
特になし					
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕					
<p>予習は特に不要であるが、復習については十分に行うことを期待する。</p> <p>川上浩司 G 棟 3 階・内線:9469 (代表)</p> <p>面談希望は必ずメールでご連絡下さい。</p> <p>kawakami.koji.4e@kyoto-u.ac.jp</p>					

## 6.10 問題解決思考

授業科目名	問題解決思考	講義担当者 所属・氏名	経営管理大学院教授 末松千尋		
開講場所	総合研究 2 号館 3 階 経営管理大学院 ケース・スタディ演習室	単位数	2	授業形態	演習
講義担当部局	経営管理大学院	開講期	後期	曜時限	火 4、5 (隔週)
〔授業の概要・目的〕					
戦略コンサルティング業界で広く使われている「フレームワークを活用した問題解決技法」、「システム思考」を基本として、戦略構築、組織・プロセス設計、IT設計、問題の整理と構造化による解決などのスキルを習得する。事例や演習を通して、実践的に学習する。					
〔授業計画と内容〕					
〔予定・内容〕					
第1部 問題提起および講座の目的の説明 第2部 システム思考講座 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 講義</li> <li>● MECE演習</li> </ul> 第3部 「対立の構造化」：『放任教育 vs 管理教育』 第4部 「表計算ソフトによるビジネス・プランの構造化」 <ul style="list-style-type: none"> <li>● ビジネス・プランの作成</li> <li>● 視覚化</li> </ul> 第5部 「問題の構造化」 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 『ダブルバインド』</li> <li>● 『組織の標準的発展形態』</li> </ul> 第6部 グループ・ディスカッション I： 実務ケースにおけるシステム思考の適用 第7部 グループ・ディスカッション II： コンサルなどのGDの過去問から選択 第8部 演習					
〔履修要件〕					
特になし					
〔成績評価の方法・基準〕					
クラスにおけるコラボレーションへの貢献度、レポート					
〔教科書〕					
特になし					
〔参考書等〕					
授業中に紹介する					
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕					
授業後					

6.11 科学技術・イノベーションと大学

授業科目名	科学技術・イノベーションと大学	講義担当者 所属・氏名	経済研究所特定准教授 関根仁博		
開講場所	公共政策大学院	単位数	2	授業形態	講義・演習
講義担当部局	公共政策大学院	開講期	前期	曜時限	火 2
〔授業の概要・目的〕					
<p>科学技術・イノベーション政策において、大学は、学術研究の中心的な担い手であるだけでなく、人材育成においても非常に大きな役割を担っている。また、大学の使命である社会貢献の一環として、大学における学術研究の成果移転や社会実装、産学連携などによるイノベーションの創出が社会的にも強く求められている。</p> <p>本授業では、イノベーションを創出するための関連政策、特に知的財産権や産学連携、大学を起点とした地域振興など大学発のイノベーション創出に必要な政策を中心に分析する。また、近年、大学は社会の要請にお応えるために様々な改革を行ってきたが、これを科学技術・イノベーション政策との対応という観点で分析し、大学がイノベーション創出のために果たすべき役割や機能について考察する。</p>					
〔到達目標〕					
<p>科学技術振興やイノベーション創出における大学の果たすべき機能や役割について分析・考察するとともに、その対応策について提案できる能力を養成する。</p>					
〔授業計画と内容〕					
<p>授業では、主に以下のテーマを取り上げる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.日本の科学技術の現状、科学技術・イノベーション政策の概観</li> <li>2.科学技術を起点としたイノベーション <ul style="list-style-type: none"> <li>・イノベーション概論</li> <li>・イノベーション関連政策(知的財産権、産学連携、その他)</li> </ul> </li> <li>3.科学技術と大学 <ul style="list-style-type: none"> <li>・科学技術振興における大学の役割・機能</li> <li>・科学技術振興の観点から見た大学改革</li> </ul> </li> </ol> <p>具体的な内容については、履修者の興味・関心に応じて変更する場合がある。 いくつかのテーマについては、外部講師等を招くこともある。</p>					
〔履修要件〕					
特になし					
〔成績評価の方法・基準〕					
<p>平常点(60点)とレポート(40点)により評価を行う。 平常点は、各界の講義の際の出席と発言など参加態度による。 期間中に、2回程度レポートの提出とそれに基づく発表・議論を求める。</p>					
〔教科書〕					
使用しない					
〔参考書等〕					
授業中に紹介する					
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕					
<p>授業中に紹介する参考書等による予習・復習を通じて理解を深めることが期待される。 オフィスアワー:事前連絡により随時受け付ける。</p>					

6.12 公共政策論 I

授業科目名	公共政策論 I	講義担当者 所属・氏名	人間・環境学研究科教授 佐野 亘		
開講場所	共南 01	単位数	2	授業形態	講義
講義担当部局	全学共通科目	開講期	後期	曜時限	金 3
〔授業の概要・目的〕					
<p>公共政策においても、問題を発見し、それに対する対策をたて、その対策を実施するプロセスを適切に管理・運営することが重要となる。本講義では、特に現実の政治・行政過程に着目し、よりよい公共政策を実現するうえで、実際上いかなる困難や問題が存在するかについて検討したい。本講義を通じて、受講者は、政策過程全体についての理解を深めるとともに、「政策の失敗」がなぜどのように起こるのかについて、自分なりに考察することができるようになることが望まれる。</p>					
〔到達目標〕					
<p>公共政策が立案・実施・評価されていくプロセスについて理解するとともに、そうした知識にもとづいて、現実の政策過程を理解・解釈できるようになる。</p>					
〔授業計画と内容〕					
<p>以下の課題について、1 課題あたり 1～2 週の授業をする予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公共政策における PDCA サイクル</li> <li>2. 現状認識</li> <li>3. 問題発見</li> <li>4. 分析</li> <li>5. 課題設定</li> <li>6. 立案 1(誰が行政サービスを提供するか:民間委託)</li> <li>7. 立案 2(誰が行政サービスを提供するか:NPO)</li> <li>8. 立案 3(不確実性への配慮)</li> <li>9. 立案 4(インセンティブシステムの有効性)</li> <li>10. 決定</li> <li>11. 実施</li> <li>12. 評価</li> <li>13. 政治と分析</li> <li>14. まとめ</li> </ol>					
〔履修要件〕					
特になし					
〔成績評価の方法・基準〕					
平常点 15%、定期試験 85%					
〔教科書〕					
使用しない					
〔参考書等〕					
<p>足立幸男 『公共政策学とは何か』(ミネルヴァ書房)          クリストファー・フッド 『行政活動の理論』(岩波書店)</p>					
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕					
<p>教科書はないので、授業後に、自分なりにノートをまとめなおすとともに、わからないことなどがあれば、積極的に教員に質問すること。</p>					

6.13 科学技術と社会に関わるクリティカルシンキング

授業科目名	科学技術と社会に関わる クリティカルシンキング	講義担当者 所属・氏名	文学研究科准教授 伊勢田哲治		
開講場所	文学研究科	単位数	2	授業形態	演習
講義担当部局	文学研究科	開講期	後期	曜時限	火 5
〔授業の概要・目的〕					
伊勢田ほか編『科学技術をよく考える』をテキストとして、科学技術と社会の接点で生じるさまざまな問題についてディスカッションを行い、多面的な思考法と、思考の整理術を学んでいく。理系の大学院のカリキュラムでは、科学と社会の関わりについて学ぶ機会はそれほど多く与えられない。他方、東日本大震災後の状況に特に顕著にあらわれているように、科学技術が大きな影響をおよぼす現在の社会において、研究者が自らの研究の社会的含意について考えること、アカデミズムの外の人々と語り合うことの必要性は非常に高まっている。練習問題を使いながら広い視野を持った大学院生を養成することが目的である。					
〔到達目標〕					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリティカルシンキング(CT)という考え方について知り、CT のいくつかの基本的なテクニックを身につけること</li> <li>・科学技術社会論の概念を学び、それを使って議論ができるようになること</li> </ul>					
〔授業計画と内容〕					
<p>授業はテーマにそったグループディスカッション、全体ディスカッション、講義、演習の組み合わせで行われる。テキストは以下の 10 のテーマから構成されているが、本授業ではそのうち 6 つをとりあげ、関連する知識やスキルとあわせて各 2 回程度を使って議論を行う。取り上げる題材は受講者の興味も踏まえて決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遺伝子組み換え作物</li> <li>・脳科学の実用化</li> <li>・喫煙</li> <li>・乳がん検診 ・血液型性格判断</li> <li>・地球温暖化 ・地震予知</li> <li>・宇宙科学・技術への公的投資 ・動物実験</li> <li>・原爆投下の是非を論じること自体の正当性</li> </ul> <p>初回に前半のテーマ 3 つを決定する。5 回目の授業で後半のテーマ 3 つを決定する。</p> <p>課題についてのフィードバック方法は授業内で説明します。</p>					
〔履修要件〕					
特になし					
〔成績評価の方法・基準〕					
<p>3 分の 2 以上の出席が単位発行の最低条件となる。</p> <p>積極的な授業参加による平常点が 70%、提出物の評価が 30%で採点する。</p>					
〔教科書〕					
伊勢田哲治ほか編 『『科学技術をよく考える クリティカルシンキング練習帳』』(名古屋大学出版会)(授業内での著者割引での販売を予定)					
〔参考書等〕					
<p>伊勢田哲治 『哲学思考トレーニング』(筑摩書房)</p> <p>野矢茂樹 『新版 論理トレーニング』(産業図書)</p> <p>藤垣裕子編 『科学技術社会論の技法』(東京大学出版会)</p>					
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕					
<p>ディスカッションのテーマとなる箇所は事前に読むこと。また宿題という形で課題を課すことがあるのでそれをきちんと行うこと。</p> <p>オフィスアワー:金曜日 15:00-16:30 (第 2 金曜日は 16:00 まで)</p>					

6.14 文献評価法

授業科目名	文献評価法	講義担当者 所属・氏名	医学研究科教授 中山健夫ほか		
開講場所	医学部G棟 2階セミナー室A	単位数	1	授業形態	講義
講義担当部局	医学研究科	開講期	前期後半	曜時限	月 4
〔授業の概要・目的〕					
<p>・臨床研究を含む社会健康医学(パブリックヘルス)領域において、基本的なスキルの1つである文献の評価方法について講義を行います。</p> <p>・疫学・EBM(根拠に基づく医療)の知識をもとに、各種の健康・医療情報を検索し、適切に評価した上で利用する方法を学習します。</p> <p>教育・学習方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイントスライドによる講義と実習</li> <li>・一部グループワークあり</li> </ul>					
〔到達目標〕					
得られた文献・情報を批判的に吟味し、主体的に活用する能力を習得する。					
〔授業計画と内容〕					
<p>第1回 4月9日オリエンテーション(中山・高橋)</p> <p>第2回 6月11日 CASP による臨床試験論文の評価(中山)</p> <p>第3回 6月25日 ケースを用いたバイアスの評価(1)(石崎)</p> <p>第4回 7月2日 ケースを用いたバイアスの評価(2)(石崎)</p> <p>第5回 7月9日コクラン共同計画によるコクラン・レビューを通して(田中・中山)</p> <p>第6回 7月23日 CASP によるメタアナリシス論文の評価(中山)</p> <p>第7回 7月30日(4・5限)メタアナリシスセミナー(野口・四方・田中・中山)</p> <p>第8回 8月6日 AGREE 法による診療ガイドラインの評価(中山)</p>					
〔履修要件〕					
特になし					
〔成績評価の方法・基準〕					
毎回の小レポート(30%)および課題レポート提出(70%)					
〔教科書〕					
講義資料は配布					
〔参考書等〕					
中山健夫, 津谷喜一郎編著 『臨床研究と疫学研究のための国際ルール集』(ライフサイエンス出版)					
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕					
<p>予習より復習に時間を取ること。</p> <p>EBM や疫学の基礎知識を学びながら、社会健康医学の学習・研究を進める基礎として、系統的な文献評価法の習得を目指します。</p>					

6.15 政策のための研究方法論

授業科目名	政策のための研究方法論	講義担当者 所属・氏名	医学研究科教授 川上浩二 政策のための科学ユニット 特任教授 カール・ベッカー		
開講場所	4 共 204(4 共 25)	単位数	2	授業形態	演習
講義担当部局	医学研究科	開講期	前期	曜時限	水 3
〔授業の概要・目的〕					
<p>本講義は、「政策のための科学」プログラムのオリジナル科目の一つ(選択科目Ⅱ:イシュー科目 群)である。社会政策を研究するためには、社会学、心理学、科学史、政治経済などの学問体系を股がらざるを得ない。本演習では、それぞれの学問領域の研究手法論を土台に、情報の検索・収集・分析から、論理構造や政策作りまで、学会発表を含め、高度な論文の研究法と書き方を目指して指導する。本演習によって、院生は信憑性と注目度の高い情報を直ぐに探せ、自分の研究論文の先行研究として位置付けられるようになる。そして論文の論理的構築と標準的形式を理解して、研究論文や出版投稿論文の基礎知識を身に付ける。</p>					
〔到達目標〕					
<p>本演習によって、学生は信憑性と注目度の高い情報を直ぐに探せ、それらを自分の研究論文の先行研究として位置付けられるようになる。そして論文の論理的構成と標準的形成を理解して、卒業論文や出版論文の基礎知識を身に付ける。</p>					
〔授業計画と内容〕					
<p>下記の様な内容を毎週紹介し、それぞれに関する宿題を一緒に添削・訂正する:</p> <p>第 1 回 04 月 11 日 オリエンテーション:メモの取り方、学術的集中法等          第 2 回 04 月 18 日 研究テーマの選び方・絞り方・目的と研究題目          第 3 回 04 月 25 日 論文調の表現や注意点・中心的概念の定義の種類          第 4 回 05 月 02 日 基礎文献の特定・確認・検索方法          第 5 回 05 月 09 日 Cinii/Web of Science による有用記事+目的の明瞭化          第 6 回 05 月 16 日 書評で注目される著書の検索          第 7 回 05 月 23 日 被引用件数で雑誌記事を検索          第 8 回 05 月 30 日 アブストラクトの使い方と書き方          第 9 回 06 月 06 日 アウトライン・目次 論理構造の形成          第 10 回 06 月 13 日 新聞記事・大宅壮一 (+文献表)          第 11 回 06 月 20 日 アウトライン・目次 の実例再検討          第 12 回 06 月 27 日 英語と日本語の博論・非売品～政府白書から科研・財団報告書          第 13 回 07 月 04 日 目次の最終構成・文献表作成確認          第 14 回 07 月 11 日 総まとめ、宿題提出          第 15 回 07 月 18 日 フィードバック</p>					
〔履修要件〕					
<p>論文作成は、数冊の本を読めば出来る作業ではなく、広範囲な文献収集を要するので、計画的な時間配分を心がけられる大学院生を期待する。</p>					
〔成績評価の方法・基準〕					
<p>中間の提出:10%、学期末レポート試験:30%、毎回の出席と宿題提出:60%、と計算して評価する。なお、4 回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。</p>					
〔教科書〕					
<p>授業中に紹介・配布する。</p>					
〔参考書等〕					
<p>高橋昭男 『仕事文の書き方』(岩波新書)          小笠原誠 『読み書きの技法』(筑摩書房)</p>					
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕					
<p>授業外学習としては、毎回、受講者の研究テーマに関する作文か、図書館やデータベースで資料に基づく調査か、いずれかの作業を必要とする。毎週提出された作文や資料は、次週に返却され、その積み重ねで成果が上がってゆく。またディスカッションの種にもなるので、その予習と提出は欠かせない。</p>					

6.16 科学的方法による京都学実践

授業科目名	科学的方法による京都学実践	講義担当者 所属・氏名	学術情報メディアセンター 教授 小山田耕二 学術情報メディアセンター 特定准教授 江原康生		
開講場所	総合研究 5 号館 217 号室	単位数	2	授業形態	講義
講義担当部局	全学共通科目	開講期	前期	曜時限	木 5
〔授業の概要・目的〕					
<p>本授業では、社会調査・認知構造の可視化を通して、京都のかかえる課題を明らかにして、その課題を解決する方法をデザインする。デザインされた解決策をグローバルな視点も含めた形で評価し、その評価結果を反映させた解決策を当該地域関係者に提示して、その有効性について評価する。具体的には、2013年5月に発表された「京都ビジョン 2040」の項目をあるべき姿として、現状とのギャップを明らかにし、そこで認識された課題に対して解決策をデザインし、その有効性を検討させる。</p>					
〔到達目標〕					
<p>この科目を履修し、学修目的を達成した結果、社会調査・認知構造の可視化を用いて、社会のもつ課題の解決策をデザインできるようになる。解決策デザインの実践のために、科学的方法を利活用できるようになる。また、社会調査に必要な基本的素養を身につけ、科学的方法における仮説検証で必要となるデータとしては、各種オープンデータ、そして必要な場合には、学生自ら取得したデータを利用できるようになる。</p>					
〔授業計画と内容〕					
<p>以下のような課題について授業を実施する。(各回 1-3 コマ)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 京都学「京都ビジョン」の理解。グループ討議による問題意識の洗い出しと共有。</li> <li>2. 実証研究の進め方と科学論文の構成(IMRAD)、社会調査の方法の学習。</li> <li>3. テーマを具体化するための地域関係者による講義・討論。</li> <li>4. 情報収集(地域関係者による講義、討論・学術論文の検索と評価)</li> <li>5. 情報整理(アンケート調査の実施: 学生、自治体、地域住民、観光客など対象)</li> <li>6. 情報分析・表現 (Excelを使った情報分析、Wordを使った論文形式レポート作成、ピアレビュー、PowerPointによる発表)</li> <li>7. 最終発表(日本語による口頭発表、表彰)</li> </ol>					
〔履修要件〕					
インターネット、電子メール、ワープロ、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトについて利用経験がある、もしくは授業期間内に自習できること。					
〔成績評価の方法・基準〕					
別途ホームページで指示する執筆要領に従って執筆された研究成果レポート(60%)とグループディスカッションにおける積極性等(40%)を考慮して成績評価を行なう。					
〔教科書〕					
使用しない					
〔参考書等〕					
『研究ベース学習』(コロナ社)ISBN:139784339077933					
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕					
学生個人が関心をもつ社会的課題を授業前に調査し、授業中には、それらをクラスメンバーと共有しておく。その時にうけるフィードバックを受けて、授業後に追加的調査を行う。					

6.17 技術者倫理と技術経営

授業科目名	技術者倫理と技術経営	講義担当者 所属・氏名	工学研究科教授 松原厚ほか		
開講場所	桂キャンパス C3 講義室 1、2、3、4	単位数	2	授業形態	講義・演習
講義担当部局	工学研究科	開講期	前期	曜時限	木 3
〔授業の概要・目的〕					
<p>将来、社会のリーダー、企業などでのプロジェクトリーダーとなるべき人間が基本的に知っておくべき工学倫理と技術経営の基礎知識を講義し、それをもとに、グループワークとしての討論と発表をする。「工学倫理」は、工学に携わる技術者や研究者が社会的責任を果たし、かつ自分を守るための基礎的な知識・知恵であり、論理的思考法である。「技術経営」とは、技術者・研究者が技術的専門だけにとどまるのではなく、技術を効率的・効果的に事業成果に結びつけるための基礎的な思考法を提供するマネジメント論である。以上について、各専門の講師団を組織し、講義、討論、発表を組み合わせた授業を行う。</p>					
〔到達目標〕					
<p>自立した技術者を養成する。</p>					
〔授業計画と内容〕					
<p>工学倫理  1.工学倫理の概論  2.医工学倫理  3.日本技術士会および海外の工学倫理  4.製造物の安全と製造物責任  5.「広義のものづくり」と技術者倫理(1)  6.「広義のものづくり」と技術者倫理(2)  7.【グループディスカッション結果の発表、全体討論。1室で実施】  8.技術者倫理の歴史と哲学  9.技術者倫理の課題発表</p> <p>技術経営  1.プロダクト・ポートフォリオ、競争戦略  2.事業ドメイン、市場分析技術経営  3.企業での研究開発の組織戦略  4.研究開発の管理理論  5.技術経営の課題発表</p> <p>総括</p>					
〔履修要件〕					
特になし					
〔成績評価の方法・基準〕					
レポートと発表					
〔教科書〕					
特になし					
〔参考書等〕					
特になし					
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕					
特になし					

## 6.18 情報社会論

授業科目名	情報社会論	講義担当者 所属・氏名	情報学研究科教授 吉川正俊 情報学研究科教授 神田崇行 情報学研究科教授 石田亨 情報学研究科教授 守屋和幸 情報学研究科教授 大手信人		
開講場所	情報学研究科	単位数	2	授業形態	講義
講義担当部局	情報学研究科	開講期	前期	曜時限	水 2
〔授業の概要・目的〕					
情報政策、情報と法制度、情報と経済、情報倫理、情報と教育など、情報技術の社会へのインパクトや社会との関わりについて講述する。これにより、受講者は、情報技術の歴史と動向、情報化社会の問題点、情報技術による社会革命、プライバシーとセキュリティ、情報政策、知的財産権、専門家の論理と責任など、情報技術と社会とのかかわりについて、多角的に学習する。					
〔到達目標〕					
情報政策、情報と法制度、情報と経済、情報倫理、情報と教育などに関して、情報技術の歴史と動向、情報化社会の問題点、情報技術による社会革命、プライバシーとセキュリティ、情報政策、知的財産権、専門家の論理と責任など、情報技術と社会とのかかわりについて十分な知識を獲得する。					
〔授業計画と内容〕					
情報政策(石田) 2回 情報と経済(吉川) 4回 情報倫理(神田) 2回 情報と法(大手) 4回 情報と教育(守屋) 3回					
〔履修要件〕					
特になし					
〔成績評価の方法・基準〕					
期末試験により評価する。教員によっては、平常点評価、レポートを併用する。情報技術の歴史と動向、情報化社会の問題点、情報技術による社会革命、プライバシーとセキュリティ、情報政策、知的財産権、専門家の論理と責任など、情報技術と社会とのかかわりについて十分な知識を獲得しているかどうかを期末試験などで評価する。					
〔教科書〕					
京都大学大学院情報学研究科社会情報学専攻『情報社会論』(2015年)					
〔参考書等〕					
永田隅蔵 編『知的財産と技術経営』(MOT テキストシリーズ)					
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕					
オフィスアワーは時間設定はしないが、個別の質問・指導を希望する場合は担当教員に事前にメールにて日時調整を行うこと。 メールアドレス: 吉川 正俊 yoshikawa[AT]i.kyoto-u.ac.jp 石田 亨 ishida[AT]i.kyoto-u.ac.jp 守屋 和幸 moriya[AT]bre.soc.i.kyoto-u.ac.jp 大手 信人 nobu[AT]bre.soc.i.kyoto-u.ac.jp (メールアドレスの、[AT]を@に変更すること。)					

6.19 医薬品の開発と評価

授業科目名	医薬品の開発と評価		講義担当者 所属・氏名		
開講場所	医学部G棟 2階セミナー室A	単位数	1	授業形態	講義
講義担当部局	医学研究科	開講期	後期後半	曜時限	水 2
〔授業の概要・目的〕					
<p>前週までの「医薬政策・行政」に引き続いて、医薬品、バイオ医薬品、医療機器の研究開発の過程 について、前臨床研究、試験物の理化学試験と製造、動物を用いた非臨床試験、そして人を対象とした臨床試験、行政当局による承認、薬価の決定(費用対効果)、市販後評価というすべてのステップにおける安全性と有効性、経済性の評価について学びます。また、トランスレーショナルリサーチの実際、製薬産業の国際動向についても学びます。</p> <p>(科目責任者)川上浩司(薬剤疫学・教授)、白沢博満(MSD 株式会社・副社長)、堀井郁夫(英国ケンブリッジ大学・客員教授)、村上雅義(先端医療振興財団・専務理事)、漆原尚巳(慶應義塾大学・教授)、大西佳恵(CreativCeutical 社・日本代表)、吉村玄(財務省主計局)</p>					
〔到達目標〕					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医薬品、医療機器、生物製剤の開発と評価の基本的考え方、方法論を理解している。</li> <li>・費用対効果、薬価とは何かについての基本的考え方、方法論を理解している。</li> <li>・薬剤疫学と市販後の基本的考え方、方法論を理解している。</li> </ul>					
〔授業計画と内容〕					
<p>第1回 11月21日 グローバル製薬企業の動向と開発薬事(白沢)</p> <p>第2回 11月28日 医薬品の創製、毒性と安全性(堀井)</p> <p>第3回 12月5日 トランスレーショナル研究と医療産業都市構想(村上)</p> <p>第4回 12月12日 医療リアルワールドデータと医薬品評価(川上)</p> <p>第5回 12月19日 市販後調査、市販後臨床試験(漆原)</p> <p>第6回 12月26日 医薬経済概論:費用対効果と薬価の考え方(大西)</p> <p>第7回 1月9日 日本の財政状況と医療・福祉(吉村)</p> <p>第8回 1月16日 神戸医療産業都市構想の見学</p>					
〔履修要件〕					
<p>本コースの前週まで講義が行われる H109「医薬政策・行政」と連続、一括した内容となっており、原則として通して受講できない方は受け入れ不可とします。また、同日 3・4限の H099「医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査」も本講義の内容を掘り下げたもので、合わせて受講することを推奨します。</p>					
〔成績評価の方法・基準〕					
講義の場への参加(50%)、レポート(50%)					
〔教科書〕					
使用しない					
〔参考書等〕					
<p>Hartzema, A.C. et al. ed. 『Pharmacoepidemiology: An Introduction 3rd ed.』(HarveyWhitney)</p> <p>安生紗枝子ら『新薬創製への招待:開発から市販後の監視まで』(共立出版)</p> <p>川上浩司編著『遺伝子医学 MOOK 別冊はじめての臨床応用研究』(メディカルドゥ社)</p>					
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕					
<p>予習は特に不要であるが、復習については十分に行うことを期待する。</p> <p>川上浩司 G 棟 3 階・内線:9469 (代表)</p> <p>面談希望は必ずメールでご連絡下さい。</p> <p>kawakami.koji.4e@kyoto-u.ac.jp</p>					

## 6.20 健康情報学 I

授業科目名	健康情報学 I	講義担当者 所属・氏名	医学研究科教授 中山健夫ほか		
開講場所	医学部G棟 2階セミナー室A	単位数	2	授業形態	講義
講義担当部局	医学研究科	開講期	後期	曜時限	金 2
〔授業の概要・目的〕					
健康・医療情報、データや知識の収集、蓄積、伝達、検索、評価法、情報リテラシー、ヘルス・コミュニケーション(リスクコミュニケーション含む)、個人情報保護などの情報倫理の課題について講義する。疫学やEBMを基本として、医学文献からマスメディア、インターネットによる健康情報まで、さまざまな情報の特徴を知り、それらを主体的、効果的に活用する方法を考える。さらに 欧米の医療関係者に関心の高い性格テスト・MBTI(Myers-Briggs Type Indicator)のワークショップを通して、個人の情報処理・認知の特性とコミュニケーションに関して体験的理解を深める。					
〔到達目標〕					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・疫学・EBMの知識を応用して、各種の健康・医療情報を適切に活用できる。</li> <li>・マスメディア情報、インターネット情報を収集し、適正な吟味を行った上で意思決定、問題解決、そしてコミュニケーションの素材とすることができる。</li> <li>・MBTIの視点から、個人の情報処理・認知、コミュニケーションの特性を理解する。</li> </ul>					
〔授業計画と内容〕					
(※変更の可能性があるので開講日に確認して下さい)					
第1回 10月5日 疫学とEBMからの健康情報リテラシー入門(1)					
第2回 10月12日 疫学とEBMからの健康情報リテラシー入門(2)					
第3回 10月19日 患者視点の情報:Quality of life と Patient reported outcome					
第4回 10月26日 インターネットとe-ヘルス					
第5回 11月2日 質の高い医療情報の集約・共有・普及・根拠に基づく診療ガイドラインを考える					
第6回 11月9日 ナラティブ情報の意義と可能性					
第7回 11月30日 「がん」をめぐる患者・国民・医療者向け情報の整備					
第8回 12月7日 疫学情報と因果関係論					
第9回 12月14日 ベネフィットとリスクのコミュニケーション					
第10回 12月21日 ヘルス・リテラシーとリスク・コミュニケーション					
第11回 12月28日 代替医療とプラセボ:健康情報とコミュニケーションの視点から					
第12回 1月11日 パブリックヘルス・インフォマティクス					
第13回 1月17日 個人の情報処理・認知特性からコミュニケーションへ:MBTI(エムビーティーアイ :Myers-Briggs Type Indicator) セミオープンワークショップ 13時30分~17時30分					
第14回 1月18日 個人の情報処理・認知特性からコミュニケーションへ:MBTI(エムビーティーアイ :Myers-Briggs Type Indicator) セミオープンワークショップ 9時~12時、13時~16時					
第15回 1月25日 総合討論・個別発表「健康情報学Iを履修して」					
※「健康情報学II」の講義と重ならないように開講します。					
〔履修要件〕					
疫学または根拠に基づく医療(evidence-base medicine: EBM)の基礎知識を持つことが望ましいが、必須ではない。					
〔成績評価の方法・基準〕					
毎回の小レポート提出 80%、発表 20%					
〔教科書〕					
講義資料は配布、MBTI ワークショップのテキストは各自購入(3,000円程度)					
〔参考書等〕					
中山健夫著『健康・医療の情報を読み解く:健康情報学への招待』(丸善書店)					
中山健夫監修『ヘルスコミュニケーション実践ガイド』(日本評論社)					
中山健夫・杉森裕樹監訳『FDA リスク&ベネフィットコミュニケーション』(丸善書店)					
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕					
情報とは「意思決定において不確実性を減じるもの」と定義されます。社会における健康・医療に関する情報の適切なあり方、そして個人の特性理解の視点から、情報のコミュニケーションについて考えてみたいと思います。					

6.21 医療政策の ELSI

授業科目名	医療政策の ELSI	講義担当者 所属・氏名	医学研究科教授 川上浩二 政策のための科学ユニット 特任教授 カール・ベッカー		
開講場所	国際高等教育院棟 演習室 23	単位数	2	授業形態	演習
講義担当部局	医学研究科	開講期	後期	曜時限	水 4
〔授業の概要・目的〕					
<p>本講義は、「政策のための科学」プログラムのオリジナル科目の一つ(選択科目 II:イシュー科目 群)である。本講義では、倫理・法律・社会学(ELSI)の立場から高齢社会の問題等を文化論的に探求する。例えばインフォームド・コンセント(治療選択・自己 決定権)、Truth-Telling (告知)、医療情報の公 開・透明性・所有権、を出発点として、公共資源分配と医療保険制度の問題点を提起し、また医療 倫理学の思考法の問題点も検討する。コンフリクトに出遭う時、狭い主観的な見地から、より多元・多様な見解・理解ができるようになることは、本授業の取り上げる問題解決のみならず、今後の 政策検討に於いて有益なスキルになると思われる。</p>					
〔到達目標〕					
<p>マニュアルやルールブックによる絶対唯一の正解ではなく、その文化と状況に応じて最も相応しい倫理行動を探る、頭の訓練を繰り返す。コンフリクトに出遭う時、狭い主観的な見地から、より多元・多様な見解・理解ができるようになることは、本授業の取り上げる問題解決のみならず、今後の人生に於いても有益なスキルになると思われる。</p>					
〔授業計画と内容〕					
<p>下記の様な内容を毎週紹介し、それぞれに関する宿題を一緒に添削・訂正する:            第 1 回 10 月 03 日 倫理とは? 政策に於ける ELSI とは? 自己紹介と生命倫理学の紹介            第 2 回 10 月 10 日 症例紹介とその分析法・ステークホルダー論            第 3 回 10 月 17 日 人口と医療福祉費配分問題            第 4 回 10 月 24 日 家庭内暴力・虐待            第 5 回 11 月 07 日 重大欠陥新生児            第 6 回 11 月 14 日 障害者福祉            第 7 回 11 月 21 日 致命的選択/優先順位            第 8 回 11 月 28 日 QALYs/医療政策            第 9 回 12 月 05 日 ACP・AD・POLST と尊厳死・安楽死・自死            第 10 回 12 月 12 日 脳死・臓器移植            第 11 回 12 月 19 日 死別と悲嘆のケア            第 12 回 12 月 26 日 自己健康管理            第 13 回 01 月 09 日 動物実験・研究倫理と COI            第 14 回 01 月 16 日 総まとめ            第 15 回 01 月 23 日 フィードバック</p>					
〔履修要件〕					
特になし					
〔成績評価の方法・基準〕					
平常点評価 出席 40%、中間課題 20%、期末課題 40%					
〔教科書〕					
多くのビデオや参考資料を授業中に紹介する					
〔参考書等〕					
特になし					
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕					
<p>毎回、宿題を提出してもらい、前回の宿題を返却する。その積み重ねの過程によって、スキルが身に付くので、途中で休んだりすると、次の段階が分からなくなる。よって、毎回の出席と宿題提出が重要になる。</p>					

6.22 可視化シミュレーション学

授業科目名	可視化シミュレーション学	講義担当者 所属・氏名	学術情報メディアセンター 教授 小山田耕二 学術情報メディアセンター 特定准教授 江原康生		
開講場所	N1(工学部3号館北棟) ／桂 A1-131	単位数	2	授業形態	講義
講義担当部局	全学共通科目(工学研究科)	開講期	後期	曜時限	火 4
〔授業の概要・目的〕					
本講義では、科学的方法において重要な役割を果たす仮説検証について体験的に学び、エビデンスを用いた政策策定に活用できるような演習を提供する。仮説検証で必要とされる問題設定を行う上で重要な社会調査法について体験的に習得させる。また、仮説検証における説明変数と被説明変数の選択や、その間の関係の発見などで重要な役割を果たす視覚的分析環境についても学習する。説明変数と被説明変数の関係を可視化するうえで重要な統計シミュレーションについても体験的に習得させる。					
〔到達目標〕					
複雑高度化した問題を発見し、広い視野をもって解決法のデザインを行い、その解決策を多くの人にわかりやすく説明する能力や社会に役立つ政策策定につなげるような能力をもつ大学院生を養成する授業科目である。					
〔授業計画と内容〕					
ガイダンス(1回) 講義の目的・授業の進め方・成績について 科学的方法と可視化・シミュレーション(2-3回) 科学的方法と可視化・シミュレーションの関係について説明する。 統計シミュレーション演習(1-2回) 表計算ソフトを使った回帰分析手法について説明し、統計シミュレーションへの適用について演習を行う。 仮説検証を支える視覚的分析環境(1-2回) 科学的方法の柱である仮説検証において有用な可視化技術とその適用について説明する。 エビデンスを用いた政策策定(2-3回) 科学的方法を使った政策策定法について説明し、実データを用いたエビデンス作成について演習を行う。 社会調査法(2-3回) 社会の声を可視化するための社会調査法(質的・量的)について説明し、クラスメンバーを対象とした調査演習を行う。 政策策定演習(1-2回) 社会の声を可視化した結果として設定された問題に対して仮説を設定し、その検証を行うための実験・観察について計画する。 クラス発表会(1回) 横断型研究分野におけるシミュレーション技術を活用した問題解決法について調査し発表する。					
〔履修要件〕					
卒業論文の執筆またはそれと同等の経験を有すること。また表計算ソフトとそのマクロ機能については利用経験があることが望ましい。Excelが稼働し、インターネットに接続可能なPCを持参すること。					
〔成績評価の方法・基準〕					
本授業では、全回出席、授業への積極的な参加と、授業中に実施する発表内容(可視化・シミュレーション技術と問題解決)の総合評価により証明する。					
〔教科書〕					
使用しない					
〔参考書等〕					
小山田耕二『研究ベース学習』(コロナ社)					
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕					
事前に指示された資料がある場合には目を通して授業に臨むこと。 授業時間外に質問がある場合には、事前にメールでスケジュールを確認すること。					

## 6.23 応用経済学

授業科目名	応用経済学	講義担当者 所属・氏名	経済学研究科教授 依田高典		
開講場所	法経東館 201 演習室	単位数	2	授業形態	演習
講義担当部局	経済学研究科	開講期	後期	曜時限	水 3
〔授業の概要・目的〕					
<p>テーマ フィールド実験・自然実験を極める</p> <p>この講義では、近年、経済学で非常に重要なツールとなっているフィールド実験、自然実験の基礎・発展・応用を勉強します。</p> <p>フィールド実験はランダム化比較対照の手法を用いた社会実験のことで、セルフセレクションバイアスを排除した真の政策効果を同定する手法です。トリートメント効果(介入)の正しい効果を同定するために、集団をランダムにコントロールグループとトリートメントグループに振り分け、両グループのトリートメント前後の差の差をパネルデータ分析します。近年では、開発経済学分野で、「貧乏人の経済学 - もういちど貧困問題を根っから考える」(アビジット・V・バナジー, エスター・デュフロ)、「善意で貧困はなくせるのか?— 貧乏人の行動経済学」(ディーン・カーラン, ジェイコブ・アベル)の著作などで取り上げられています。</p> <p>予算の規模や運営の困難さから、フィールド実験を日本やアメリカのような先進国で、エネルギーや医療のような重要な研究テーマで実施することは困難でした。我が依田研究室では、2010 度から経済産業省との共同研究として、スマートグリッド(次世代電力システム)のフィールド実験の運営を行っています。そうしたノウハウも含めて、本講義では講義をしていきます。</p> <p>今後はフィールド実験が、ラボ実験と並んで、経済学の必須ツールとなっていくことでしょう。あわせて、マイクロ計量経済学、行動経済学など、一緒に勉強すれば、注目度の高い学術論文を執筆できるかもしれません。興味のある方はご参加下さい。</p> <p>前期に、行動経済学・(基本的)フィールド実験を勉強する「産業経済学」を開講していますので、そちらもあわせての履修をお薦めします。</p>					
〔授業計画と内容〕					
<p>第 1 週から第 5 週</p> <p>フィールド実験の基本的な知識を講義または輪読します。</p> <p>参考書として、下記の 2 冊を上げます。</p> <p>[1] Rachel Glennerster, Kudzai Takavarasha, Running Randomized Evaluations: A Practical Guide, Princeton Univ Pr (2013/11/4)</p> <p>[2] Alan S. Gerber, Donald P. Green, Field Experiments: Design, Analysis, and Interpretation, W W Norton &amp; Co Inc (Np) (2012/5/29)</p> <p>第 6 週から第 10 週</p> <p>自然実験の基本的な知識を講義または輪読します。</p> <p>参考書として、下記の 1 冊を上げます。</p> <p>[1] Dunning, Thad (2012). Natural Experiments in the Social Sciences: A Design-Based Approach. Cambridge University Press.</p> <p>第 11 週から第 15 週</p> <p>フィールド実験・自然実験の論文を輪読します。例えば、次のような 2 論文を取り上げます。</p> <p>[1] Ida, T., Ito, K., Tanaka, M. (2013) "Using Dynamic Electricity Pricing to Address Energy Crises: Evidence from Randomized Field Experiments," Mimeo, Stanford University.</p> <p>[2] Ito, K. "Do Consumers Respond to Marginal or Average Price? Evidence from Nonlinear Electricity Pricing," American Economic Review, 104(2): 537-63, 2014.</p>					
〔履修要件〕					
マイクロ経済学・計量経済学に関する基礎知識を有すること・または同時に学習することが望ましい。					
〔成績評価の方法・基準〕					
基本的に、平常点を重視して評価します。(講義中のプレゼンテーション、必要に応じてレポートの提出など)					
〔教科書〕					
授業中に指示する					
〔参考書等〕					
授業中に紹介する					
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕					
オフィスアワー 予約に応じて随時(内線 3477 オフィス新棟 614 号室)					

6.24 まちづくりとまち経営

授業科目名	まちづくりとまち経営	講義担当者 所属・氏名	経営管理大学院特定教授 吉田 恭		
開講場所	総合研究2号館3階 経営管理マルチメディア講義室	単位数	2	授業形態	
講義担当部局	経営管理大学院	開講期	後期	曜時限	木 2
〔授業の概要・目的〕					
<p>我が国の都市は、人口減少時代という新たな局面を迎え、中心市街地の空洞化や人口密度低下による賑わいや都市機能の低下、まち自体の老朽化、地域コミュニティの衰退、景観破壊等のさまざまな問題が起きてきている一方、密集市街地の残存、巨大災害への対応の遅れ等の古からの課題も依然として残されている。しかしながら、財政状況のひっ迫、社会の複雑化・多様化等の理由から公共主体のみでの問題解決が難しくなっている。このため、住民や事業者、まちづくり会社、NPO等の民間主体の活躍への期待が高まってきており、実際に、これらの主体がエリアマネジメントという新たな手法で従来の公共サービスを越えた官民中間領域のまちづくりを担う事例が増加している。</p> <p>本講義は、まちづくりの現場や政策立案の最前線で実際に問題となっている課題や、現在国・地方公共団体に議論されている解決の方向性、近年創設された制度、まちづくりの現場で行われている取り組み・工夫等、最新の生の議論や情報を幅広く伝え、受講生が自ら課題を意識し、解決策を考える講義とする。具体的には、まちづくりの全般的な課題と制度を分野別に学び、国又は地方公共団体の実務者による講話を行う。また、まちづくり現場のフィールドワークとして、現地調査を行うとともにまちづくりプロジェクトを担う実務者から直接話を聞く。本講義は、上記を学ぶことにより、現代社会の事業活動・価値創造が行われる場である「都市」の創造・維持活動に関する高度な専門的知識の習得と、高度職業人として不可欠な「多くの主体の利害が絡みあう中での課題解決能力」の養成を目指すものである。</p>					
〔到達目標〕					
現代社会の事業活動・価値創造が行われる場である「都市」の創造・維持活動に関する高度な専門的知識の習得と、多くの主体の利害が絡みあう中での高度職業人としての課題解決能力を養う。					
〔授業計画と内容〕					
<p>担当講師によるまちづくりとまち経営に関する幅広い分野の講義、外部講師による行政又は民間のまちづくりの取組の講話、まちづくりの現地調査と現地の方の講話からなるフィールドワーク、学生レポート案の発表を組み合わせで行う。詳細は追って知らせる。昨年度実績をもとにした現在のイメージは以下の通り。</p> <p>第1回 イントロダクション及びまちづくりの歴史と基本的な仕組み  第2回 都市計画/市街地整備・まちづくり事業  第3回 コンパクトシティ  第4回 外部講師によるまちづくりの取組の講話 &lt;17年度実施:京都市都市計画局長&gt;  第5回 防災まちづくり  第6回 景観・歴史まちづくり  第7回 外部講師によるまちづくりの取組の講話 &lt;17年度実施:国土交通省都市局都市計画施設調整官&gt;  第8回 まちづくりにおける官民連携(エリアマネジメント)  第9・10回(1・2限の時間を使用) フィールドワーク(まちづくりの現地調査及び講話)  &lt;17年度実施:古川橋区画整理(安全安心のまちづくり。エリアマネジメント)&gt;  第11回 フィールドワーク(まちづくりの現地調査及び講話) &lt;17年度実施:姉小路界隈(景観まちづくり)&gt;  第12回 水害土地利用規制(海外のまちづくりの事例)  第13回 発表報告会(第1回):受講生によるレポート案の事前発表会  第14回 発表報告会(第2回):受講生によるレポート案の事前発表会  なお、上記の授業計画と内容は変更もありうる。</p>					
〔履修要件〕					
木曜1・2限の時間を利用して現地集合でまちづくりプロジェクト現場のフィールドワークを1~2回程度行う予定のため、履修に当たっては注意のこと。					
〔成績評価の方法・基準〕					
授業への出席・参加状況(30%) 発表報告会(30%) 期末レポート(40%)					
〔教科書〕					
指定せず、授業時に配布する資料を使用する。					
〔参考書等〕					
<p>小林重敬 『最新 エリアマネジメント』(学芸出版社, 2015) 日本都市計画学会関西支部新しい都市計画教程研究会 『都市・まちづくり学入門』(学芸出版社, 2011)  養原敬 編著 『白熱講義これからの日本に都市計画は必要ですか』(学芸出版社, 2014)  野沢千絵 『老いる家 崩れる街』(講談社現代新書, 2016)  奥野信宏, 栗田卓也 『都市に生きる新しい公共』(岩波書店, 2012)  安本典夫 『都市法概説(第2版)』(法律文化社, 2013)  <a href="http://www.gsm.kyoto-u.ac.jp/ja/city.html">http://www.gsm.kyoto-u.ac.jp/ja/city.html</a>(官民協働まちづくり実践講座ホームページ)</p>					
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕					
追って知らせる。					

## 6.25 現代社会論演習 1B

授業科目名	現代社会論演習 1B	講義担当者 所属・氏名	こころの未来研究センター 教授 広井良典		
開講場所	総人棟 1B08	単位数	2	授業形態	演習
講義担当部局	総合人間学部	開講期	後期	曜時限	水 3
〔授業の概要・目的〕					
「持続可能な福祉社会／定常型社会」という社会像を意識しつつ、ローカルからグローバルにおよぶ現代社会の諸課題について、理念・哲学と政策・社会システムの架橋、あるいは「人間についての探究」と「社会に関する構想」の総合化を重視しながら考究する。					
〔到達目標〕					
現代社会における諸課題あるいは人間という存在について、原理にさかのぼった考察を行いつつ、同時にそれを具体的な政策・社会システムと結びつけ、オリジナルな構想や提言に展開できる能力を養う。					
〔授業計画と内容〕					
上記の観点から、現代社会論に関わる書物や論文を読み、議論をする。また、現代社会論にかかわる関心事について受講者に報告してもらう。具体的なテーマと取り上げる書物や論文については、受講者と相談の上、決める。					
〔履修要件〕					
特にないが、積極的に発表、および議論に参加すること					
〔成績評価の方法・基準〕					
毎回の出席・報告やレポート等による					
〔教科書〕					
特になし					
〔参考書等〕					
特になし					
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕					
授業外学習 課題テキストを読みレポートを作成すること及び自らの関心のあるテーマについてのレジュメ等の作成					

## 6.26 共生社会環境論演習 3B

授業科目名	共生社会環境論演習 3B	講義担当者 所属・氏名	人間・環境学研究科教授 佐野 亘		
開講場所		単位数	2	授業形態	演習
講義担当部局	人間・環境学研究科	開講期	後期	曜時限	火 5
〔授業の概要・目的〕					
<p>本演習の目的は、民主主義と政策とのかかわりについて、理論的に検討することである。適切な公共政策を実現するにはどうすればよいのか、そこで民主主義はどのような役割を果たしうるのか(果たすべきなのか)、さらには、市民、政治家、官僚、専門家、NPOなどはそれぞれどのように関わるべきなのか、といった問題について議論したい。</p>					
〔到達目標〕					
<p>民主主義のもとで、いかにして適切な政策デザインを実現するか、自分なりに考えられるようになること。</p>					
〔授業計画と内容〕					
<p>文献講読をおこなう。 どのような文献を読むかについては、受講者と相談したうえで、決定する。</p>					
〔履修要件〕					
特になし					
〔成績評価の方法・基準〕					
出席および授業への参加					
〔教科書〕					
授業中に指示する 適宜、配布する。					
〔参考書等〕					
授業中に紹介する					
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕					
<p>事前に講読する文献を読んで、自分なりの質問や意見を考えておくこと。また、授業後には、授業内での議論について、自分なりにまとめておくこと。</p>					

## 7. (参考) 大阪大学カリキュラム

科目カテゴリー	開講部局(課程)	授業科目名	単位	学期	
入門必修科目 (2単位)	CO デザインセンター(院)	科学技術イノベーション政策概論 A	1	春	
	CO デザインセンター(院)	科学技術イノベーション政策概論 B	1	夏	
必修科目 (2単位)	CO デザインセンター(院)	科学技術コミュニケーション演習	2	集中	
連携必修科目 (2単位)	CO デザインセンター(院)	研究プロジェクト	2	通年	
選択科目(8単位以上)	選択科目Ⅰ: 基軸科目群 (1科目以上選択)	CO デザインセンター(院)	科学技術コミュニケーション入門 A	1	春
		CO デザインセンター(院)	科学技術コミュニケーション入門 B	1	冬
		CO デザインセンター(院)	科学史・科学哲学入門	1	夏
		CO デザインセンター(院)	科学技術社会論入門	1	春
		CO デザインセンター(院)	科学技術と公共政策 A	1	秋
		CO デザインセンター(院)	科学技術と公共政策 B	1	冬
		CO デザインセンター(院)	訪問術 A(質的研究のデザイン!)	2	春
		CO デザインセンター(院)	訪問術 B(体験型ジャーナリズム入門)	2	夏
		人間科学研究科(博士前期)	フィールド調査法特講	2	春・夏
		人間科学研究科(博士前期)	社会における科学技術特定演習	2	秋・冬
		工学研究科(博士前期)	サステナビリティ評価・技術論	2	春・夏
		基礎工学研究科(博士前期)	科学技術移転論	2	秋・冬
		国際公共政策研究科(博士前期)	公共政策 I	2	秋・冬
		選択科目Ⅱ: インシユール科目群 (1科目以上選択)	CO デザインセンター(院)	科学技術イノベーション政策総合演習	2
	CO デザインセンター(院)		科学技術と社会特論 A	1	秋
	CO デザインセンター(院)		科学技術と社会特論 B	1	冬
	CO デザインセンター(院)		特別講義 A(Science, Technology and Society)	1	夏
	CO デザインセンター(院)		特別講義 B(Crossing Borders in Higher Education and Research)	1	秋
	CO デザインセンター(院)		CO デザイン講義(Food Security and Sustainability)	2	春・夏
	人間科学研究科(博士前期)		科学技術と文化特講	2	秋・冬
	法学部		特別講義(インターネット技術と法規制)	2	秋・冬
	法学研究科(博士前期)		総合演習(生命倫理と法)	2	秋・冬
	法学研究科(博士後期)		特定研究(生命倫理と法)	2	秋・冬
	医学系研究科(修士)		ライフサイエンスの倫理と公共政策学	2	春・夏
	工学研究科(博士前期)		産業環境マネジメント論	2	春・夏
	工学研究科(博士前期)		サステナブルシステムデザイン論	2	春・夏
	基礎工学研究科(博士前期) (ナノサイエンスデザイン教育研究センター提供)		ナノテクノロジー社会受容特論 A	2	春・夏
	基礎工学研究科(博士前期) (ナノサイエンスデザイン教育研究センター提供)		ナノテクノロジー社会受容特論 B	2	不開講
	国際公共政策研究科(博士前期)		環境法	2	春・夏
	国際公共政策研究科(博士後期)		特殊研究(環境法)	2	春・夏
	国際公共政策研究科(博士前期)		特殊講義(開発と環境)	2	秋・冬
	国際公共政策研究科(博士後期)		特殊研究(開発と環境)	2	秋・冬
	国際公共政策研究科(博士前期)	特殊講義(人事の経済分析 1)	2	通年	
国際公共政策研究科(博士後期)	プロジェクト演習(人事の経済分析 3)	2	通年		